

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価

岐阜県立可児高等学校

学校番号

41

1 学校教育目標	「自ら学ぶ」「自ら治む」「自ら鍛う」の自立の精神を涵養し、人間性豊かで心身ともに健全な青年を育成し、清新はつらつの校風の樹立を図る。		
2 スクール・ポリシー	<p>『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの生き方あり方を主体的に考え、高い志と向上心を持って、自らが直面する課題に向かって行ける生徒 ・優れた自己管理能力と高いコミュニケーション能力を持ち、将来の日本社会・国際社会においてリーダーとして活躍できる、思慮深く俯瞰的な視点を持つ生徒 ・基本的生活習慣が確立され、強固な規範意識と社会性を持ち、誠実で礼儀正しく品位ある、心身ともに健全な生徒 	<p>『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に応じた手厚い指導によって基礎学力を定着させつつ、全教育活動での探究的学びによって、生涯に渡る主体的学習姿勢を育成 ・キャリア教育や総合的な探究の時間における校外諸機関と連携した活動や、行事や部活動等の特別活動における創造的・協働的な活動を通じて、コミュニケーション能力とリーダーとしての資質を醸成 ・交通安全教育をはじめとするマナー・規範意識向上の取組と、日々の学習習慣確立を通じて、「清新はつらつ」の校風にふさわしい社会性と人間性を育成 	<p>『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と切磋琢磨しつつ毎日の学習に真摯に取り組む、自らの可能性を伸ばして行こうとする生徒 ・地域社会への視点を大切にしつつ、広く日本社会・国際社会で自らの能力を発揮し活躍したいとの強い意欲を持つ生徒 ・周囲とのコミュニケーションの大切さを理解し、公正さと正義感を重んじて、笑顔と思いやりに満ちた人間関係の中で自らの力を伸ばして行きたいと考える生徒
3 現状の分析	<p>○アンケート結果から、学習指導、進路指導について、生徒の肯定的な意見が大きく増加し、保護者も本校の職員の対応や指導に肯定的な意見をもっている。交通安全の指導や個人情報管理などについて、肯定的な回答が多いが、その割合が減少していることについて、職員全体で意識をしていく必要がある。健康管理や安全指導について、マニュアル自体の説明や安全指導を行う機会が少ないことも肯定的な意見が減少した原因と考えられる。8割以上の生徒が「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い。」と回答しているが、一方で「学校は、保護者（地域）の悩みや相談に適切に対応している」という設問について、「わからない」と答えた保護者の割合が多いことが気になることである。また「学校は、体罰の防止に努めている。」、「学校の教職員は、働き方改革に努めている。」との設問について、「わからない」との回答が4割程度あり、改善の必要がある。</p> <p>▲アンケート結果の昨年度との比較で、全般的に肯定的な意見が増加しているが、肯定的な意見が減少している項目やわからないという意見が多い項目については、具体的に原因を考察する必要がある。学校の方針と教育活動、そして教職員の意識にずれがないこと、生徒や保護者の意見に真摯に耳を傾け、できることから改善していくことが大切である。</p>		
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・求められる学力観の変化、大学入試の変化への対応 ・進路希望の多様化に対する対応 ・学校の広報活動・情報発信の更なる充実 		
5 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 希望する進路が達成できる高校を目指します。 (1) 学習習慣を身につけさせ、主体的・対話的で深い学びを目指す指導を行います。(2) 生き方あり方の指導を行います。 ◇ 礼儀正しい高校生を育成する高校を目指します。 (1) 豊かな心を育成します。(2) 基本的生活習慣の定着とマナーの向上を図ります。 ◇ 交通安全教育に重点を置く高校を目指します。 (1) 交通安全教育を充実させます。(2) 生徒の安全確保のための指導を充実させます。 		

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価		
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題
教務 進路指導	①基礎基本を重視し、わかる授業、充実感を与える授業に努めます。Classiを活用して学習習慣の定着を図るとともに自己管理能力を高め、自学自習の態度を育てます。	①生徒による授業評価の実施。Classiの活用度と学習時間の確保と学習習慣の確立との相関関係の分析。	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート、学習時間調査を定期的実施した。(教務) Classiの機能の活用は十分ではなかった。(進路指導) 	C	<p>【学校評価アンケート結果】</p> <p><学習指導></p> <p>生徒 R3 48.5% ⇒ R4 69.8% ↑</p> <p>保護者 R3 66.5% ⇒ R4 69.0% ↑</p> <p><進路指導></p> <p>生徒 R3 78.4% ⇒ R4 84.3% ↑</p> <p>保護者 R3 75.1% ⇒ R4 77.3% ↑</p> <p>○Forms を活用してアンケートを実施し、省力化を図ることができた。回収率も上がった。</p> <p>▲アンケート結果の共有が不十分であった。</p> <p>▲Classiからmanabaへの移行。</p> <p>○学力の伸長、定着度について細目に観測ができた。</p> <p>▲感染予防の観点で、公開研究授業は最小限となっている。</p> <p>○課外講座の枠組みの変更や広報を徹底したことなどで、進路指導に対する肯定的評価は保護者・生徒ともに増加した。</p> <p>▲希望者対象の講座だが、より多くの生徒が参加するように募集や企画に工夫が必要である。</p>
	②習熟度や到達目標に応じた授業の工夫やICT機器をバランスよく活用した授業を通して、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促す授業改善を推進します。	②各種テストの成績分析。年2回の公開研究授業や職員研修の実施。	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査だけでなく、外部模試などを通じて客観的な成績分析を行った。(教務) 外部講師を招いて複数回研修を実施した。(進路指導) 	A	
	③キャリア教育を充実させ、生き方あり方を考えさせます。	③授業時間外、希望制の各種講座、キャリアガイダンス等の実施。アンケートを通した生徒、保護者の充実度の分析。	<ul style="list-style-type: none"> 新規土曜講座の計画、放課後講座の充実を図った。(進路指導) 講座毎にアンケートを実施した。(進路指導) 進路だよりを充実し、定期的に発行した。(進路指導) 	B	
特別活動 探究	①特別活動や探究的学びにおける主体的、創造的、協働的な取り組みを通じて、豊かな人間性を育成します。	①清新祭（文化祭、体育祭）の新設。アンケートを通した生徒、保護者の充実度の分析。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体性が発揮されるような行事計画とした。 行事ごとに生徒及び教職員にFormsを活用したアンケートを実施した。(特別活動) 	A	<p>【学校評価アンケート結果】</p> <p><学校行事></p> <p>生徒 R3 70.7% ⇒ R4 75.3% ↑</p> <p>保護者 R3 67.5% ⇒ R4 70.1% ↑</p> <p>○行事後にアンケートを実施し、次年度に活かすようにしている。</p> <p>○委員会等を含め、生徒主導の場面を増やす試みがなされている。</p> <p>▲教職員全員の協力体制の充実が必要である。</p>

教育相談 生徒指導	①教育相談的な指導を充実させ、豊かな心と道徳的実践力を養成し、思いやりのある生徒を育成します。また、嫌がらせやいじめを決して許さない環境をつくるとともに、情報モラルの向上にも努めます。	①年2回の教育相談週間の実施。いじめに関するアンケートの実施。スクールカウンセラーや相談員等の活用とアンケート結果への細やかな対応。	・年2回の教育相談週間、毎月の心のアンケート、年3回のいじめに関するアンケートを実施した。(教育相談・生徒指導) ・スクールカウンセラーや相談員を活用し、生徒への細かな声掛けと教員間の情報共有を行った。(教育相談)	B	【学校評価アンケート結果】 ＜家庭との連携＞ 生徒 R3 85.9% ⇒ R4 87.0% ↑ 保護者 R3 75.9% ⇒ R4 77.5% ↑ ↑＜教職員＞ 生徒 R3 77.0% ⇒ R4 80.2% ↑ 保護者 R3 70.2% ⇒ R4 71.5% ↑ ＜生徒指導＞ 生徒 R3 79.5% ⇒ R4 81.6% ↑ 保護者 R3 62.1% ⇒ R4 63.0% ↑ ＜健康管理・安全指導＞ 生徒 R3 85.6% ⇒ R4 83.2% ↓ 保護者 R3 85.2% ⇒ R4 77.5% ↓ ○心のアンケートの結果から素早い対応を取ることができた。 ○教育相談週間では困っている生徒を早期に把握し、対応することができた。 ▲学年の情報を学校全体に共有することが難しかった。 ▲遅刻の数が増加(昨年722件⇒今年度828件(2月末まで)) ▲生徒主導の基本的な生活習慣とマナーの向上を図りたい。 ▲遅刻指導の方法等の再構築 ○今年度より生徒指導部通信(梨花)を発行し、事故や自転車のマナー、不審者情報などの情報を素早く伝えることができた。 ▲事故の件数が増加。(昨年17件⇒今年度30件(3月6日現在)) ▲ヘルメット着用者が少ない。 ○保護者にも朝の登校風景を見て頂き、生徒や学校の様子を直接知って頂くことができた。
	②時間厳守、挨拶、端正な身だしなみなど基本的な生活習慣の指導とマナーの向上を図り、礼儀正しく品位ある高校生を育成します。	②身だしなみ指導、遅刻、遅下校防止指導の実施。生徒の意識調査の実施と分析。	・年間を通して、身だしなみ指導、遅刻、遅下校防止指導を実施した。(生徒指導)		
	③交通安全教室、全校統一交通安全ロングホームルーム、交通講話、生徒による啓発活動、全校集会などを通じて、規範意識を高めるとともに、マナーの定着を図ります。	③交通安全関係の啓発活動や全校集会の実施。アンケートによる意識調査と分析。交通事故件数の減少目標設定。	・交通安全関係の啓発活動や全校集会の実施。(生徒指導) ・生徒指導通信を定期的に発行し、素早い情報伝達を心掛けた。(生徒指導)	B	
	④生徒指導部による毎日の指導、全職員による交通安全指導、保護者と連携した登校指導などを実施し、生徒の安全の確保を図ります。	④生徒指導部を中心とした職員とPTAが連携した交通指導の実施。防災訓練や意識調査の実施と分析。	・PTA職員合同の挨拶運動(交通安全運動)を実施。(生徒指導・渉外)	B	
12 総合評価	A (B) C D				

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月10日

<教務・進路指導>

・生徒の主体性を重んじていると聞いていたが、授業の様子を見て生徒が生き生きとして、大変良い雰囲気であった。また生徒が生徒に説明する場面など、我々の時代には無かった授業の取組を行っている。生徒の興味関心を高める講座等の工夫も良い。可児高校の進学校としてのプライドも守りつつ、生徒の可能性を広げていってほしい。

<特別活動・探究>

・コロナ禍で多くの行事などが制限されてきたが、生徒の活躍の場である体育祭や文化祭などの実施ができて良かった。生徒が自ら地域の課題に目を向け、実際にフィールドワークを通して地元の人とのつながりができ、教科を超えた学びができています。今後もより充実した活動となるよう持続可能な組織の構築や生徒に有益な機会を増やしてほしい。

<教育相談・生徒指導>

・中学校でも不登校や相談室登校を選択する生徒が増加している現状がある。可児高校での生徒への手厚い指導をポジティブに伝えていってほしい。生徒を暖かく見守る姿勢も必要である。ヘルメット着用も努力義務化された。交通事故やマナーなどについても繰り返し指導していってほしい。

<全般>

・校長のリーダーシップのもと、学校改革が着実に成果をあげており、令和の時代の新たな可児高のイメージを創り上げている。今後も温かさや熱さをもった指導により、生徒の自主性と向学心が育まれている学校であってほしい。

13 来年度に向けての改善方策案

<教務・進路指導>

・学力だけでなく予測不可能な未来に対応できる課題発見・解決能力、創造力、探究力の育成のため、教務部、進路指導部が連携し、授業改善、各種講座の更なる充実、生徒が参加するボランティア活動の機会の充実を図る。
・教員同士がお互いに授業を参観し合うだけでなく、保護者、外部の方々にも授業を見ていただく機会を作る。

<特別活動・探究>

・生徒会が中心となる体育祭、文化祭の充実とともに生徒の可児高校広報活動への積極的な参加を啓発。
・1年次のグループ探究から2年次の個人探究へのスムーズな移行と探究のノウハウの共有。中学校や他の高校とオンラインでつなげるなどの発表形態を工夫。

<教育相談・生徒指導>

・交通事故に対する注意喚起、ヘルメット着用の意識づけの継続。
・生徒指導通信の充実。
・生活委員会などの委員会を中心としたあいさつ運動等の実施。
・教育相談活動の充実と担任、学年団、教科担任等の情報共有と連携の強化と個に応じた柔軟な対応

<全般>

・ホームページの充実やすぐメールの活用による生徒、保護者への情報発信。
・中学校や地域の方々への広報活動の継続。